令和６年第２回東北町議会定例会会議録

令和６年６月１１日（火曜日）午前１０時００分開議

○議事日程（第２号）

日程第１　一般質問

本日の会議に付した事件

日程第１　一般質問

◎一般質問

○議長（岡山粕男君）　日程第１、一般質問を行います。

一般質問の通告は４名であります。

通告順に発言を許します。

３番、大崎昭子議員は、一問一答方式による一般質問です。大崎昭子議員の発言を許します。

〔３番　大崎昭子君登壇〕

○３番（大崎昭子君）　皆さん、おはようございます。３番、大崎昭子です。まずは、ご多用中にもかかわらず傍聴に来てくださいました方々、いつもありがとうございます。東北町テレビを御覧の皆様、次回は直接東北町議会を傍聴してみてはいかがでしょうか。場所は、本庁舎の３階にございます。ぜひ足を運んでいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、議長のお許しをいただき、一問一答にて質問させていただきます。先月、５月25日の先行開催を皮切りに、上北郡スポーツ大会が開催され、我が東北町は若い世代から、上は90代の選手が大活躍し、見事総合優勝を果たしました。選手の皆さん、そして関係者の皆さん、本当におめでとうございます。

スポーツが盛んな我が町は、小中学生の全国大会出場や青年、壮年の部でも全国で活躍している人やチームがたくさんいらっしゃいます。まさにスポーツは町を、町民を元気にしていると言っても過言ではないでしょう。

そのスポーツの祭典とも言える国民スポーツ大会がいよいよ2026年、令和８

年に青森県にて開催されます。国民スポーツ大会の目的は、国民のスポーツの普及とスポーツ精神を高揚しての健康増進と体力の向上、併せて地方文化の発展に寄与し、国民生活を明るく豊かにするとあります。我が町でも、競技の開催が予定されており、経済の活性化が大いに期待されるところではないでしょうか。

そこで、2026年開催の国民スポーツ大会対策について３点質問いたします。１点目として、49年ぶりに青森県で開催されますが、町としての準備は進めているのかお聞かせください。

２点目として、町として国民スポーツ大会をどのように盛り上げていくのかお聞かせください。

３点目として、ボランティアスタッフの募集はお考えかお聞かせください。

以上３点、御答弁のほどよろしくお願いいたします。

○議長（岡山粕男君）　町長。

〔町長　長久保耕治君登壇〕

○町長（長久保耕治君）　皆さん、改めましておはようございます。それでは、３番、大崎昭子議員のご質問にお答えをいたします。

一般質問通告のありました質問事項１の2026年開催、国民スポーツ大会対策についてお答えをいたします。質問要旨の１点目、49年ぶりに青森県で開催されるが、町としての準備は進めているかお聞かせくださいについてでありますが、第80回国民スポーツ大会及び第25回全国障害者スポーツ大会は、２年後の令和８年10月に、県内20市町村を会場に、正式種目37種目が開催となります。本町においては、令和８年10月17日から19日までの３日間、南総合運動公園野球場とソフトボール場を主会場に、少年男子ソフトボール競技が開催されることとなっております。また、障害者国民スポーツ大会においても、10月23日から26日までの４日間、南総合運動公園ソフトボール場を主会場に競技が開会されることとなっております。

なお、大会に向けての取組になりますが、本年は７月に町での大会実行委員会を設立する予定となっております。

競技に伴う施設整備については、年内にソフトボール場の本部棟の塗装とバックボードの塗装を行うこととしています。令和７年度には、競技に伴う備品

購入などの準備を進める予定となっております。

さらには、大会に係るボランティアの対応、商工、観光事業並びに特産品のＰＲ、販売などについて、全国からいらっしゃる選手、役員関係者の皆様に町としてどのようなサポート、受入れ態勢ができるかなどを検討してまいりたいと思います。

次に、質問要旨の２点目、町として国民スポーツ大会をどのように盛り上げていくかお聞かせくださいについてでありますが、国民スポーツ大会はその開催県、競技を実施する各市町村と地域の人々によって盛り上げていくことが大切だと認識をしております。

そうした中で、全国から来ていただいた選手、関係者の皆様、また町内外から応援、観覧においでいただいた皆様に、いで湯の里東北町の温泉につかっていただき、観光もしながら、町の特産品も食べていただき、楽しかった、来てよかった、そう思えるような大会にしたいと考えております。

このことから、大会実行委員会設立後には、町民の関心や参加意欲を高めるため、広報活動や大会に向けての周知に努めてまいります。

次に、質問要旨の３点目、ボランティアスタッフの募集はお考えかお聞かせくださいについてでありますが、現在県主導で大会運営に関するボランティアスタッフを5,200名、広報に関するスタッフ200名、情報支援に関するスタッフ600名、こちらは手話400名、筆談200名、こういった方々を募集しており、その中から来年の秋頃に各市町村へ割当てが決定されると伺っております。

このことから、本町に割当てされるボランティアスタッフの状況も確認しながら、不足が生じた場合は町でも募集するなど、選手が伸び伸びとプレーできる環境と関係者を含むスタッフへのサポート体制を整えて、受入れに万全を期したいと思っておりますので、ご理解を賜りたいと思っております。

以上、答弁といたします。

○議長（岡山粕男君）　大崎昭子議員。

○３番（大崎昭子君）　ご答弁ありがとうございます。我が町では、少年男子ソフトボールが開催されるということです。ソフトボールは、我が町でも優秀な選手が多く存在していまして、数々の大会で成績を残しています。選手や関係者の皆さんは、この2026年の国スポのハイレベルな試合を楽しみにしているの

ではないかなというふうに考えます。

近年スポーツの大会は、競技の開催だけではなく、同時に食フェスであったり音楽フェスであったり、また花火大会を開催するなどの工夫がされてきています。競技をする人たちだけではなく、応援に来た方、見にきた方にも楽しんでもらえるようなスタイルに変わってきているのではないかなというふうに思います。新しいスタイルに変わってきている国スポを成功させるには、様々な業種であったり団体であったりを巻き込んでの開催が必要になるのではないのかなというふうに考えます。町では、７月に実行委員会を設立するということでしたが、その実行委員会について質問させていただきます。

実行委員会は、どういったメンバーで構成するのか、またどういったメンバーで構成する予定なのかをお聞かせください。お願いします。

○議長（岡山粕男君）　町長。

○町長（長久保耕治君）　大崎議員にお答えをいたします。

大崎議員ご指摘のように、本当に競技者だけではなくて観客、やっぱりお越しいただいた方々をどうおもてなしするかということが大事になってきますし、そういった意味ではこの７月の実行委員会、大変重要なことになってくるかと思います。そのメンバーの詳細については、今担当課長のほうから説明を差し上げます。

○議長（岡山粕男君）　社会教育スポーツ課長。

○社会教育スポーツ課長（甲地徳彦君）　お答えします。

実行委員の構成メンバーにつきましては、本町を訪れる様々な方々をおもてなしの心で温かく迎え入れるよう、幅広い分野において様々な方々の協力体制が図られるよう、委員の構成について今後構成していきたいと思っております。

○議長（岡山粕男君）　大崎昭子議員。

○３番（大崎昭子君）　具体的なメンバーがちょっと出てこないようでしたので、これから実行委員会を立ち上げなければならないのであれば、ぜひとも本当にいろんな分野の方にお声がけして、町全体で盛り上げられるようにしていただきたいと思います。

ちょっと提案にはなるのですけれども、例えば育ち盛りの高校生、少年男子ということは、高校生の皆さんが競技に来るわけですから、その高校生の皆さ

んの朝食にぜひ我が町の牛乳を飲んでもらえるように、ＪＡさんや牛乳プロジェクトに協力してもらうとか、小川原湖のおいしいもの、漁協さんに協力していただいて、ガニ汁やシジミ汁であったり、そういうものを振る舞ったりとか、あと国スポに来た関係者の皆様が地元に帰ったときに、いや、東北町はいい町だったな、そうだ、ふるさと納税したいなと思ってもらえるような、選手の方々に物産の紹介をするとか、先ほど答弁にもありましたけれども、温泉や飲食店の紹介、商工会さんのほうと一緒にそういう温泉、飲食店の紹介、その人たちに盛り上げてもらったりとか、これでもかというぐらい東北町をアピールしていただきたいと思いますので、いろんな団体、多種多様な業種の方々に幅広く声をかけていただくことをお願いいたします。

それと、現地視察があると思うのですけれども、ぜひとも今年佐賀県のほうで国スポがあります。そちらのほうの状況等をぜひ調査していただいて、今の現状が49年前のあすなろ国体のときと全くさま変わりしていると思いますので、今の現状をぜひ調査していただいて、我が町で行う国スポに向けてしっかり対策のほうをしていただければなと思います。

続いて、２点目になりますけれども、２点目、国スポの盛り上げについてです。横断幕とかの周知啓発、広報活動等をしていくと思いますが、先週特別委員会の要望活動で、青森県選出の国会議員の先生方のところに伺わせてもらいました。中には、既に国スポのポスターを貼られている方々もありまして、県内の市町村では横断幕をもう貼ってきているところも出てきています。広報活動は着々と各市町村で進んでいるようですので、我が町でもぜひとも遅れることなく、広報、周知に取り組んでいただければなというふうに思っております。

国スポの盛り上げというのは、広報や周知だけではなく、県外から来る選手団、応援団等をいかにおもてなしできるか、楽しんでもらえるか、喜んでもらえるかということが大事になってくると思います。そのためには、その準備が必要であり、東北町がどういう町なのか、先ほど答弁にありましたけれども、我が町はいで湯の里でございます。特色の一つに温泉がありまして、その温泉を楽しんでもらうことも大事なアイテムなのではないかなというふうに思っています。ちょうど今年、我が町では温泉マップをたしか作成するということでお話しされていたと思うのですけれども、温泉と飲食というのは切っても切り

離せないセットのものだと思うので、ぜひともこの温泉マップの作成もありますけれども、飲食店マップの作成もいかがかなと思いますが、どうでしょうか。

○議長（岡山粕男君）　町長。

○町長（長久保耕治君）　大崎議員にお答えをいたします。

大変貴重なご意見、ご要望ありがとうございます。大崎議員が今おっしゃっていただいたことも参考にしながら、７月の実行委員会を立ち上げということになるのですが、本当にスピード感を持って、いろいろなジャンルのメンバーで構成をして、そういった大崎議員からおっしゃっていただいた食に関することであったりおもてなしに関することでも、行き届いた形で進めていければなと思っておりますし、その横断幕だったり周知についても、こちらのほうもほかのもう自治体が始まっているというご指摘もありました。我々も追いかけるような感じになるのですが、ぜひともしっかり進めてまいりたいと思っていますので、議員の皆さんもご協力方よろしくお願いをいたします。また、今お話にありました温泉マップ、そして飲食店マップのほうも、様々前向きに検討して、今は温泉マップということで進めさせていただいております。後ほど商工観光課長のほうから、担当課長のほうから説明差し上げますけれども、そういったものも前向きに考えているところでございます。詳細については、担当課長から説明をさせます。

○議長（岡山粕男君）　商工観光課長。

○商工観光課長（甲地尚彦君）　それでは、お答えいたします。

大会期間中は、全国から選手並びに関係者など、多くの方々が町に来られることから、観光協会、そして商工会などと連携して、出店など町の特産品のＰＲ販売など、積極的に実施していきたいというふうに考えてございます。また、先ほど議員からもありましたとおり、今年度は町内の温泉マップを5,000部作成する予定でございます。また、各飲食店などを掲載した観光パンフ、それを１万部作成する予定となってございます。あわせて、ホームページ、ＳＮＳなどで東北町の魅力を発信していきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（岡山粕男君）　大崎昭子議員。

○３番（大崎昭子君）　ありがとうございます。温泉マップが5,000部というこ

とで、足りなくないようにたくさん作っていただければなと思います。マップの作成は、我が町を紹介する大事なアイテムです。国スポに限らず、いろんな場面で町に来ていただける方に紹介する大事なアイテムですので、作成することによりまた盛り上がっていけるのではないかなというふうに考えております。当然温泉マップや飲食店マップを作ることによって、その関係者の方にも、ああ、こういうイベントがあるのだな、こういうのが来るのだなという心の準備というか、では私たちはどういうことをしていったらいいのかな、お店であったり温泉であったり、お客様を迎え入れるに当たって、また企業努力をするためにも、そういうことがあるよというのを早めにお知らせすることが大事なのではないのかなというふうに思っております。早めにお知らせすることによって、協力を得られるのではないかなというふうに考えます。町の観光事業として、この大会の盛り上げについてどのようにお考えかをお聞かせいただけますか。

○議長（岡山粕男君）　町長。

○町長（長久保耕治君）　大崎議員にお答えをいたします。

先ほど担当課長のほうからもお話がありましたように、パンフレットはもちろん、また私も先ほどお答えさせていただいたように、やっぱり横断幕であったり、今議員からもご指摘があったように、そういったことを重ねていくことによって、まず機運を高めていくこと、やはり来ていただいた方にとっては、私たち一人一人がやっぱりアテンダントですので、みんながおもてなしをできる、そういった機運を高めることがまず第一になるかと思っております。

また、やはり時代とともに、まさに数十年前の青森県で開催されたときは大分様相も変わってきている中で、今では本当にＳＮＳを使ってすぐ今この東北町で行われている大会がこういった形で行われているよと、周りにはこういった形の中で私たちをもてなしてくれているよとか、こういった形でおもてなしを準備していますよということも発信できると思います。

そういった予告もしながら、ＳＮＳもうまく使いながら、また皆さんに、来た方々にＳＮＳを使ってもらえるように、出店であったりマルシェであったりで例えば特産品を販売するとか、特産品の、先ほどのガニ汁とかシジミ汁ではないですけれども、最近は牛肉の販売も始めましたけれども、そういった形の

ものを皆さんに食べてもらうようなブースも用意するとか、そういった形の中で本当に、いわゆるスポーツの大会なのですが、お祭りの要素を多分に盛り込みながら、皆さんまた東北町に来たくなる、また本当にそうなってくれればありがたいのですが、ふるさと納税したくなるような、そういった期待と喜びを持たせるような、そういった大会にすることが東北町にとっても大変大事なことになってくると思います。

そういった大きいイベントを生かすも殺すも私たち次第でありますし、そういった中では行政がしっかり先導して、町民の皆さんも牽引していきながら、様々なコンテンツを皆さんとともにつくり上げてまいりたいと思っておりますので、ご理解賜りたいと思います。

以上です。

○議長（岡山粕男君）　大崎昭子議員。

○３番（大崎昭子君）　ありがとうございます。ぜひＳＮＳ等を利用して、町でモチベーションを上げていければなというふうに思っております。今の青森県開催の国スポで、りんご娘が歌って、何かそれにダンスというのもあるらしいので、例えば町民みんなでそのダンスをしてみる、そういうのを子供たちから高齢者までダンスができるようになっているようでしたので、そういったものを取り入れたりしていくのもまた盛り上げの一つになるのかなと思いますので、またそういうのも取り上げながら、モチベーションを上げて頑張っていければなというふうに思っております。よろしくお願いします。

最後の３点目のボランティアスタッフについてです。県からの割当てがどの程度になるか分かりませんが、来年の秋に割当てになるということです。町の職員だけでは、到底完結できる大会ではないというふうに考えております。現在国スポは、開催地の人的、財政的負担から、開催基準の見直しを求める要望が上がってきています。それだけ財政負担が大きいということです。少しでも町の財政負担を抑えるためにも、ボランティアスタッフや地域の協力というのは必須になるのではないかなというふうに思います。大会が成功するか否かは、準備や段取りにかかっていると思います。１点目の質問でも申し上げましたが、実行委員のメンバーに事前にボランティアスタッフの件も提案しておけば、早い段階での人員の確保もできるのではないかなというふうに考えますので、ま

ずは何はともあれ７月の実行委員会の設立、それをしっかり組み立てていただいて、これから加速してスタートしていただくことをお願い申し上げまして、私の質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（岡山粕男君）　これで３番、大崎昭子議員の一般質問を終わります。